

【議事】定 36

(1) 第 57 回国際宇宙会議 (IAC) バレンシア大会の参加結果について

JAXA の樋口理事が資料 36-1( IAC 参加結果 ) を説明した後、IAC に参加した松尾委員も報告を行ない、その後で質疑応答があった。

樋口理事の説明では、 プレナリイベントの冒頭で行われた各国の宇宙機関長パネルについて、口頭での追加説明があった。ESA は「宇宙活動には有人と無人があり、有人は米国の主導で進み、無人も国際協力が肝要であるが ESA の主導でやっていく。」こと、NASA は個々のプログラム説明は無かったこと、CNSA ( 中国 ) は「宇宙科学と探査は国際協力で進める。」ことを説明した。また学術発表について簡単にしか書かれていないが、これが IAC のメインであり、JAXA から 20 ~ 30 人が発表したことを報告した。

松尾委員の追加口頭説明は、番号無しの資料に追記した。

板谷 : 2 ページにはロシアが ESA を主要なパートナーとすると書かれている。先程 ESA は有人を米国とやると言われたが、ESA とロシアとの間に軋轢が生じないのか。

JAXA 樋口 : ESA は米国との協力関係を築くとは言わず、米国が有人でイニシアティブを取るだろうという分析を述べた。

青江 : 月探査にについて 12 月にまとめを行う予定で進められているが、各国は好意的な応答をしていない。この件についての言及は無かったのか。

JAXA 樋口 : この会議は月探査を論じる場ではない。ただ別の

筋からの情報を持っているのでお答えする。昨年 11 月に米国が各国の代表を集め、月探査計画への協力を要請したのであるが、NASA の長官がグリフィンに代わって変化が生じている。「月に行くことはどのような意義が有るのか」を一年かけて世界で議論することになった。その結果を 12 月に纏める予定である。米国が計画を作り、各国に「どの部分をやるのか」と問いかけるのではない。

青江 : 米国のイニシアティブを維持し続ける意図は、長官が代わっても変わっていない。

JAXA 樋口 : 「探査の意義」を 12 月に纏めると言っているので、それもまた報告したい。また、ESA はステーションの経験を基に、「国際協力のあり方」を検討していると聞く。

井口 : IAC は官中心の会議ですね。宇宙が健全な成長をするには民間が中心にならなければ。米国でビジネスになれば日本も可能だと思うが。

JAXA 樋口 : 民間も大勢が参加していた。

井口 : それは聴きに来た人でしょう。

JAXA 樋口 : 前回「商業利用」のパネルがあったが、今回は無かったという相違は有る。